

製品名: CaMKK2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07896**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	CAMKK2 CAMKK2; CAMKKB; KIAA0787; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase kinase 2;
別名	CaM-KK 2; CaM-kinase kinase 2; CaMKK 2; Calcium/calmodulin-dependent protein kinase kinase beta; CaM-KK beta; CaM-kinase kinase beta; CaMKK beta
遺伝子 ID	10645.0
SwissProt ID	Q96RR4
免疫原	抗血清はヒト CAMKK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 381-430

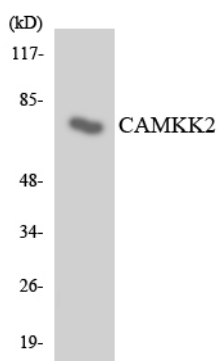
背景

この遺伝子産物は、セリン/スレオニンタンパク質キナーゼファミリー、および Ca(2+)/カルモジュリン依存性タンパク質キナーゼサブファミリーに属します。この遺伝子の主要アイソフォームは、下流のキナーゼ CaMK1 および CaMK4 をリン酸化することにより、カルシウム/カルモジュリン依存性 (CaM) キナーゼカスケードにおいて役割を果たします。この遺伝子のタンパク質産物は、AMP 活性化タンパク質キナーゼ (AMPK) もリン酸化します。この遺伝子は脳で最も強く発現し、学習と記憶、神経細胞の分化と移動、神経突起の伸展、シナプス形成に関するシグナル伝達カスケードに影響を与えます。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。同定されたアイソフォームは、自己リン酸化を受ける能力と下流のキナーゼをリン酸化する能力が異なります。[RefSeq 提供、2012年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。ドメイン: 自己阻害ドメインはカルモジュリン結合領域と重複しており、立体構造内自己阻害に関与している可能性がある。ドメイン: RP ドメイン (アルギニン/プロリンに富む) は、CAMK1 および CAMK4 を基質として認識する役割を担っている。酵素調節: Ca(2+)/カルモジュリンによって活性化される。カルモジュリンの結合により立体構造内自己阻害が解除される可能性がある。自己リン酸化は活性や Ca(2+)/カルモジュリンによる調節を変化させない。活性は Ca(2+)/カルモジュリンに依存しない部分もある。機能: カルシウム/カルモジュリン依存性タンパク質キナーゼ。カルシウム誘導性シグナル伝達カスケードに属すると考えられており、多くの細胞プロセスに関与している。アイソフォーム 1、アイソフォーム 2、およびアイソフォーム 3 は CAMK1 および CAMK4 をリン酸化します。アイソフォーム 3 は CAMK1D をリン酸化します。カルモジュリン結合ドメインの一部を欠くアイソフォーム 4、アイソフォーム 5、およびアイソフォーム 6 は不活性です。海馬における CREB1 の活性化に関与していると考えられます。PTM: 自己リン酸化。配列注意: イントロン保持。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: カルモジュリンと相互作用します。組織特異性: 普遍的に発現し、脳では高濃度です。脾臓、前立腺、甲状腺、白血球では中濃度が検出されます。肺では最低濃度です。

研究分野

AMPK

画像データ



CAMKK2 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。

CaMKII β ポリクローナル抗体を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析

